SOCIUS No.16 2021

［ソシアス］

仁愛女子短期大学　総合学務センター
入学・地域支援課

仁愛女子短期大学
総合学務センター
入学・地域支援課

INDEX

1. はじめに
「私立大学研究ブランディング事業成果報告会」を終えて“仁”を想う …… 松川　恵子　1

2. 公開講座
食育講座 ～親子でデコレーションケーキづくり～ …… 森　恵見　2

3. 自治体等との連携事業（福井市・永平寺町・森田地区）
令和3年度 保育研究合同発表会 …… 増田　翼　4
ディノケールのロゴ・パッケージをデザインしました。 …… 西畑　敏秀　6
森田人Tシャツ～ご当地Tシャツによる人と人を繋ぐ試み …… 内山　秀樹　7
自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告 …… 入学･地域支援課　8

4. 社会的活動報告
小さな船に掲げるセーフティフラッグをデザイン。 …… 生活デザイン専攻　9
五目亭×仁短コラボ …… 生活科学学科 食物栄養専攻　森ゼミ　10
折り紙を用いた壁面をつくる …… 幼児教育学科　羽兼　桜　12
「木づかい体験会」への参加・運営 …… 幼児教育学科　小川　希望　13
仁愛保育園とのアートプロジェクト実施報告 …… 前田　博子　14

5. 私立大学研究ブランディング事業 成果報告会 …… 増田　翼　16

6. 図書館の活動報告 …… 竹下　真弓　18

7. 福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室 …… 野路　昌美　20

8. 令和3年度 総合学務センター入学・地域支援課 活動報告
教員の地域活動一覧 …… 24
教員免許状更新講習 …… 26

※敬称略

はじめに

「私立大学研究ブランディング事業成果報告会」を終えて“仁”を想う

幼児教育学科長※　松川　恵子

平成 31（2019）年２月、仁愛女子短期大学では、平成 30（2018）年度 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業に全国の短期大学で唯一採択されるという快挙に、驚きと歓喜の声がとどろきました。採択された研究テーマは、「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発―シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して―」です。その後、本学では、学長のリーダーシップの下、ブランディング推進室長である増田翼准教授を中心に、幼児教育学科を研究主体として、令和３（2021）年度まで全学的に研究ブランディング事業に取り組んできました。

折しも、全国の保育者養成校では、平成 31（2019）年度入学生から新教職課程・新保育士養成課程が施行され、本学でも新しいカリキュラムでの保育者養成が始まろうとしていました。平成 31（2019）・令和２（2020）年度は、新保育者養成カリキュラムの中で、学生たちにどのような資質・能力を身に付けてほしいか、それぞれの授業担当者が、それぞれの立場から考え、試行錯誤しながら様々な視点での研究を進めました。

また、「高校・短大・保育現場のシームレスな繋がり」が研究ブランディング事業のテーマですので、高校生が養成校へ入学するときにどのような資質・能力を身に付けていてほしいか、保育現場ではどのような資質・能力が求められるのか、そして、保育者としてどのように成長していくのか、という「保育者としての成長」を可視化することについても、高校の先生方、保育現場の方々のご協力を得ながら研究を進めました。

そして、令和３（2021）年度には、これまでの研究を基に、研究ブランディング事業の本丸である「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」の完成へと歩みを進め、令和４（2022）年２月 26 日（土）に、４年間の研究ブランディング事業の成果報告会をオンラインで開催しました。成果報告会には、オンラインのよさが活かされ、北は北海道から南は沖縄県まで、全国から多数の方々にご参加いただき、保育現場、高校、行政、養成校、など、様々な職種の方々に本学の取り組みを報告させていただきました。（研究の詳細につきましては、2019 年度・2020 年度・2021 年度各「研究ブランディング事業　成果報告書」および本学ホームページをご参照いただければ幸いです。）

４年間の研究ブランディング事業の取り組みでは、「高校・短大・保育現場の繋がり」をテーマに研究を進めてきましたが、成果報告会を終えて、私が一番強く思うことは、「研究ブランディング事業」という共通のフレームの中で、本学教職員一人一人が、立場の違いを超えて、緩やかにつながりながら取り組むことができたということです。つまり、「研究ブランディング事業」を通して、本学の建学の精神である“仁”（支え合う人間関係）を発揮し、“仁”を確認することができたのではないかと思います。そして、これこそが本学の“ブランディング”なのではないかと思いました。

今後も、本学では、研究ブランディング事業の成果を検証しつつ、保育者の仕事の魅力（楽しさ・喜び・やりがいなど）を発信し、保育現場の方々をはじめ、保育関係者、地域の方々とつながり、「子どもたちが幸せに成長できる社会」を願って研究・教育活動に精進していく所存です。皆様のご理解とご支援・ご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※令和４年３月時点での役職です。

公開講座

食育講座～親子でデコレーションケーキづくり～

生活科学学科　食物栄養専攻　講師　森　恵見

毎年、年末に開催される公開講座の“食育講座～親子でデコレーションケーキづくり～”ですが、昨年度はコロナの影響で開催できませんでしたが、今年度は感染症感染防止対策を徹底して人数を制限して開催しました。

「家で一緒にケーキを作りたいけど準備が…」と思っているお父さんお母さんのために、本学の広い調理室やお子さん専用の包丁などを使って、親子でケーキをデコレーションしてもらいました。フルーツなど飾り付けをして世界で一つだけのクリスマスケーキを作りました。

ケーキの作り方だけでなく、スーパーに売っている安価な生クリームと高価な生クリームの違いや、スポンジケーキを作る際のコツ、生クリームの泡立て方など、「どうしてなの」という疑問を解決しながら、説明しました。

参加者の参加理由として、

・子どもとケーキを作りたかったから。
・子どもは手伝いや料理をしたがるが、親に時間や心に余裕がなく、させてあげることがあまりできない。特に私自身がお菓子作りをしないので、ハードルが高く感じていて全くさせてやれないので、いい機会だと思って。
・親子でできて楽しそうなイベントだったから。

参加した感想として保護者の方からは、

・子どもが先生の話を聞いて、コツを真似していてびっくりしました！ありがとうございました。
・シンプルで子どもにちょうどいい。楽しかったです。
・子どもが自由にデコレーション等、普段できない（させてもらえない）事を楽しそうにやっていて良かった。また、補助してくださる学生さんもずっとついていてくれたため、戸惑うことなく作業できて助かった。
・お家では、なかなかゆっくり作れないので、子どもと一緒にできて楽しかったです。

というお声をいただきました。

講座を手伝ってくれた学生からは、

・私が担当した子は２・３歳くらいの子と５歳くらいの子で、最初はどう接していいのか分からなかったですが、楽しそうにケーキ作りをしていて嬉しかったです。いちごをハート型にしていて可愛かったです。親子で楽しみながらケーキ作りができていたので良い講習会だと思いました。
・小さい子の「自分でやってみたい」という気持ちや、保護者の方の「キレイに出来なくてもいいから自分の思うように作ってみてほしい」という気持ちが伝わってきました。子どもたちがそれぞれ自分で考えた切り方やデコレーションの仕方で、上手に作っていてすごいなと思いました。教えるのは難しかったけれど、私にとっても良い経験になり、子どもたちや保護者の方とお話もできて楽しかったです。

という感想がありました。

今年度の食育講座に参加していただいた皆さん、ありがとうございました。この食育講座は、地域に貢献できる講座でもあり、お手伝いの学生達の学びの場でもあります。令和４年度も、楽しく・美味しく・学びのある講座を考えていきたいと思います。

■■■ 福井市との連携事業 ■■■

令和3年度 保育研究合同発表会

（福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科　合同発表会）

幼児教育学科　准教授　　増田　翼

これまで本学幼児教育学科では、発表会などを通じて学生の学習成果を発信してきました。また2019年度からは、包括連携協定を結んでいる福井市との協働による「保育研究合同発表会」を開催し、学生の学習成果と現場保育者の研究成果を互いに発表し合い、学びを深める場づくりにも取り組んできました。

2021年度の開催については、新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）の拡大が懸念されたこともあり、2020年度と同様にWeb上（YouTubeチャンネル）における動画公開としました。公開期間中は、「保育の質の向上に向けて共に学びあおう」をテーマに、このYouTubeチャンネル上における発表会を、視聴者自らが学びを深める場、ならびに学生と現場保育者がお互いにその学びを共有する場、として位置づけたほか、アンケートによる相互評価も行いました。また2021年度は、新たに「基調講演」という枠を設け、和洋女子大学の矢藤誠慈郎先生に講演動画「保育の質を高め、保育者が成長するための学び合い」を制作していただき、期間内であれば参加者がいつでも視聴できるように準備しました。実施内容の詳細は以下の通りです。また、実際のYouTubeチャンネル画面を次のページに掲載しておきます（図1、図2、図3）。

●公開期間　2022年1月28日(金)～2月14日(月)

●内　　容

- 福井市および仁愛女子短期大学からのメッセージ
- 矢藤誠慈郎先生（和洋女子大学）による基調講演
- 福井市公立園 26 か園および発表希望の私立園の研究内容、成果と課題
- 研究指定園指導者 5 名によるコメントおよび学生、現職者へのメッセージ
- 仁愛女子短期大学幼児教育学科 2 回生「保育総合ゼミナール」学習成果発表

●視聴対象者

福井市公立園職員、福井市私立園職員、仁愛女子短期大学幼児教育学科1・2回生

仁愛女子短期大学入学予定者（高校3年生：入学前教育）

その他、福井県内現場保育者、行政関係者、保育者養成校教職員など

なお、公開期間中にご回答をいただいた福井市公・私立園勤務の保育者（職員）の方々からのアンケート結果では、「学生さんならではの視点で様々なことを研究されていると感じました」、「現職の立場からでは思いもしないようなテーマがあり、とても興味深かったです」、「コロナ禍でも学生たちは熱心に勉強している事がわかりました」など、本学幼児教育学科の２回生の発表に対して様々なご意見を頂戴しました。さらに、今回の合同発表会全体に対するアンケート回答としては、「他の園での取り組みを見ることで、環境や遊びをもっと考えていきたいなと刺激を受けました」、「YouTubeで各園の発表を見るのは、自由な時間に視聴出来てとても良い方法だと思うので、今後も継続してほしい」、「もう少し配信期間が長いと、もっとたくさん見られるのにと思います」など、Web上での開催に対して好意的な考えが多かったです。興味深いご意見としては、「仁愛大学の研究にも興味があります。来年度は、短期大学だけでなく仁愛大学も含めた合同発表会も良いのではないかと思いました」といったものもありました。来年度以降、コロナの状況次第では開催形態を一から検討しなくてはなりません。これらのご意見を踏まえながら、よりよい合同発表会を目指して努力していきたいと思います。

図1　2021年度 保育研究合同発表会
YouTubeチャンネル

図2　YouTubeチャンネル例：
福井市公立園

図3　YouTubeチャンネル例：
幼児教育学科「保育総合ゼミナール」

福井市との連携事業

新しい福井の特産野菜を目指して／福井市園芸センター
ディノケールのロゴ・パッケージをデザインしました。

生活科学学科　生活デザイン専攻　教授　西畑　敏秀

短大と包括連携協定を結んでいる福井市の福井市園芸センター主導のもと、福井市の新たな特産野菜として若手農家さんたちが栽培を始めたイタリア野菜の「カーボロネロ」。カリウムやカルシウム、ビタミンCなど栄養価が非常に高く、そのレベルは野菜の中でもトップクラスですが、なかなか知名度も広がらず苦戦しているなか、新たに福井の恐竜にちなんだ「ディノケール」と銘打って取り組むプロジェクトに生活デザイン専攻_西畑ゼミの学生たちが参加しました。

5月末／福井市園芸センターとの打ち合わせ。農家さんの課題や現状の問題点を把握。

6月／生産農家さんを訪れ、実際に収穫体験。初めて見る野菜に驚き、その場で生試食。

7月末／親しみやすい手書きイメージのロゴをあれこれ工夫しながらスケッチ。

10月／魅力を伝えるためのキャッチコピー提案。農家さんたちの投票でロゴマークとともに決定！

11月23日／福井駅前ハピテラスで開催された「越前マルシェ」の会場ラジオ番組でアピール。

次々と訪れる方々に、ディノケールの魅力やネーミングの由来などを説明。

11月の公開・発表イベントに向けて、生産農家さんを訪れ苗植えや収穫体験を行い、新しいネーミングにふさわしいキャッチコピー34案とロゴマーク10案を10月にプレゼンテーション。農家さんたちの投票によって決定した案を元にパッケージデザインを進め、いよいよ11月23日にハピテラスで開催されたお披露目イベント「越前マルシェ」に、そろいのディノケールパーカーを着て参加。ライブの会場ラジオ番組にも生出演して来場者の方々に、ディノケールの魅力を発信しました。

明日のキレイに、つなげール。
ディノケール

▲スーパーや道の駅で販売中の商品
◀決定したキャッチコピーとロゴマーク

森田地区との連携事業

森田人Tシャツ～ご当地Tシャツによる人と人を繋ぐ試み
（もりのわフェスタ）

生活科学学科　生活デザイン専攻　教授　内山　秀樹

「森田人Tシャツ」は森田ゆかりの素材をデザインしたTシャツを着ていただくことにより、見知らぬ住民同士のコミュニケーションを促し、連帯感を高めることを目的とする企画です。この企画を生活デザイン専攻２回生２名が卒業研究の一環として立案し、取り組みました。

まず、Tシャツのデザインを公募し、「森田人Tシャツ総選挙」と称してもりのわフェスタの来場者にアイロンプリントシートの状態で販売し、売れ行きと投票によって商品化するデザインを決めようというものです。

しかし、デザインの公募は思うようにいかず、結果的には、地元のデザイン関係者３名、仁短生７名から寄せられた10のデザインを投票対象デザインとしました。10月17日フェスタ当日は、環境デザイン演習受講生7名が臨みましたが、荒天に加えて学生の来場者への働きかけ不足もあって、デザインを決定できるほどの投票数が集まりませんでした。そこで、急きょ11月14日の森田地区文化祭に出展し、投票していただくことにしました。

その結果、1位と３位が地元在住デザイナー、２位が本学学生の作品となりました。Tシャツの商品化については、来年度、主催団体である森田地区文化委員会に担っていただけるよう、Tシャツ総選挙の趣旨説明の動画も制作しました。（右のQRコード）

“もりのわフェスタ” での森田人Ｔシャツ総選挙

また、当日夜には、2019年度にチャレンジして好評だったマイアクア壁面へのプロジェクションマッピングのオリジナルコンテンツ『水の尊（みこと）』の再上映で、実像の巫女と映像のコラボシーンがあり、巫女役に弓道経験者のゼミ生が抜擢され、無事大役を演じました。

森田人Tシャツ動画

『水の尊』の巫女役

森田地区広報誌に掲載された全作品
（２段目左から1位～3位）

自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告

総合学務センター　入学・地域支援課

協定に基づいて、今年度も相互に連携・協力して様々な事業を行いました。

【永平寺町】

○気になる子への関わり方（園巡回）

内　容：子どもの見方、支援の方法等

講　師：本学 幼児教育学科　准教授　中尾繁史

開催日：松岡東幼児園〈オンライン〉
2021年5月10日（月）13:30〜13:30

志比幼児園〈オンライン〉
2021年5月10日（月）14:00〜15:00

御陵幼児園〈オンライン〉
2021年5月14日（金）13:30〜14:00

松岡西幼児園〈オンライン〉
2021年5月18日（火）13:30〜15:00

松岡幼稚園〈オンライン〉
2021年5月20日（木）13:30〜14:30

上志比幼児園〈オンライン〉
2021年5月21日（金）13:30〜14:30

志比幼児園〈オンライン〉
2021年5月24日（月）13:00〜13:30

志比北幼児園〈オンライン〉
2021年5月25日（火）14:00〜16:00

志比南幼児園〈オンライン〉
2021年5月27日（木）13:30〜15:30

なかよし幼児園〈オンライン〉
2021年5月28日（金）14:00〜15:30

松岡西幼児園〈対面〉
2021年8月23日（月）9:30〜14:30

御陵幼児園〈オンライン〉
2021年9月28日（火）10:00〜11:30

志比南幼児園〈対面〉
2021年10月25日（月）9:30〜15:00

御陵幼児園〈対面〉
2022年1月13日（木）9:30〜13:30

【森田地区】

今年度は、例年実施していた、森田地区児童館等における英語であそぼう講座や本学附属図書館の利用サービス等の事業は、新型コロナウイルスのため中止となりました。

○ＪＲ森田駅構内の夢ギャラリー森田へ作品等展示

2021年 5月　附属図書館
2021年 7月　入学・地域支援課
2021年 9月　生活情報デザイン専攻
2021年10月　生活デザイン専攻
2022年 1月　幼児教育学科
2022年 3月　食物栄養専攻

附属図書館（5月）

生活デザイン専攻（10月）

社会的活動報告

海難を未然に防ぎ、海上交通の安全を確保する／敦賀海上保安部

小さな船に掲げるセーフティフラッグをデザイン。

生活科学学科　生活デザイン専攻

春先に、短大のホームページを見て…と敦賀海上保安部より電話が。ここ数年、コロナ禍でも密になりにくいと海のレジャーが流行り、福井県沿岸でも小型のボートで海に出られる方がかなり増えたそうです。その結果ミニボートやシーカヤック、ＳＵＰ（スタンドアップパドルボード）などの事故が急増し、対策として、目立つ・シャレた・映えるセーフティフラッグを若者目線でデザインして欲しいという要望でした。

セーフティフラッグとは、船体が小さいボート用で、他の船から発見されやすく、衝突事故などを未然に防止するために掲げる旗。今回グラフィックデザインの授業を受講する2回生18名が、様々な視点からアイデアを重ねて、合計28案のデザインを提案しました。

最終的に自治体や関係者による審査を経て、池田晴香さんのデザインが採用。高い視認性と年齢や性別に関係なく多くの人が使いやすいような躍動感のある波のデザインが評価されました。11月には短大において感謝状の贈呈式が行われ、今後の海上交通の安全確保に役立てたいというメッセージが伝えられました。

海保の巡視船などから見つけやすい鮮やかなオレンジと黄色のデザインは、特に多く発生しているボートが沖合に流され帰れなくなってしまった、という事故などの救助にも繋がるということです。

海上保安部の担当・石丸さんより、課題や目的・ターゲットについて詳しい事前説明。

各自のアイデアを、Macのアプリを駆使して現場で効果を発揮できるデザインに仕上げる。

贈呈式には、新聞やテレビ等、多くのマスコミが取材に訪れ、社会性の高さが感じられた。

フラッグは安全指導を受けた後に配布、利用されている。（写真提供／敦賀海上保安部）

社会的活動報告

五目亭×仁短コラボ

生活科学学科 食物栄養専攻 森ゼミ
美肌チーム ～ 秋山沙也香・富山 明音・宮下 結理・松川 珠梨
美腸チーム ～ 石津紫央花・納村江里子・出口 絢花・正藤 陽香

私たち森ゼミは、五目亭とコラボメニューを開発しました。メニュー開発をするにあたって開発担当者から、女性ウケする商品・インスタ映えする商品・栄養面に配慮した商品といった要望をされました。

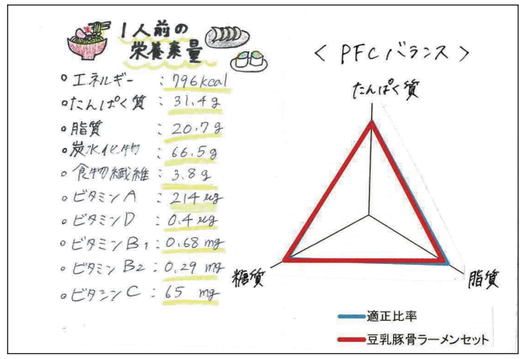
第１弾は、ラーメンは食べたいけれど美容にも気を使いたい女性のために『美肌』をテーマにメニューを開発しました。お肌ぷるぷる！豆乳豚骨ラーメンセットの内容は、豆乳豚骨ラーメン・野菜たっぷり生春巻き・五目亭特製餃子です。2021年11月25日から12月26日まで提供されました。

※実際提供されたメニュー

お客様のご意見として、
・スープはまろやかだがしっかり味がついていて麺とちゃんと絡まって最高だった。
・ナッツの食感と春巻きのシャキシャキ感と様々で良かった。
・豚骨と豆乳の出会いで脂っぽさが緩和されて良かった。
・もう少し味のインパクトが欲しい。
・豚足のコラーゲンを取るためにスープを飲み干したいので塩分を少なくしたほうが良い。
といったご意見がありました。

※手書きでポップを書き、店内に掲示してもらいました。

今回、商品開発を通して、美肌に特化した食材を組み合わせることの難しさを知り、商品開発の大変さを学びました。



第1弾「美肌チーム」

※実際提供されたメニュー

第２弾は、女性ウケもして、インスタ映えもし、美容大国でもある最近流行りの韓国料理をテーマにメニューを開発しました。超腸スッキリ한국요리（韓国料理）セットの内容は、ヤンニョムチキン・キンパ・チョレギサラダ・九龍球ゼリー・五目亭特製かたいけのラーメンです。2022年1月6日から2月20日まで提供されました。

※手書きでポップを書き、店内に掲示してもらいました。

お客様のご意見として、
・１００点です！
・おすすめで食べてみて正解でした。
・ボリューム満点で良かった。
・色々な物が一度に味わえて良かった。
といったご意見がありました。

「自分たちで食べたい」と思えるものを考えて作ることができました。女性ウケや流行を考慮してアイデアを練り、商品開発をするのは初めてで楽しかったです。

提案した通りに販売することは難しく、作業効率や価格、材料の発注の面で考慮しないといけない部分があり連携を組むのが少し大変だったが完成したときは、とてもやりがいを感じました。

第２弾「美腸チーム」

社会的活動報告

折り紙を用いた壁面をつくる

幼児教育学科　2回生　羽兼　桜

私たち松川ゼミは、毎月折り紙を用いた壁面を作成し、小児がんで入院する子どもたちがいる病院に届けました。活動の目的は、壁面を届けることで少しでも喜んでほしいという想いと私たちの壁面作成や折り紙の技術向上のためです。また、入院している子どもたちが壁面を見たり、折り紙を折ったりして楽しんでほしいという想いから活動を続けてきました。壁面は毎月季節に合ったテーマを考えてつくり、折り紙もテーマにあったもので簡単で折りやすそうなものを調べて加えました。さらに、壁面と一緒に折り図もつくって届けました。折り図をつくる際には、折り方を調べて一度自分たちで折ってみることで、どの折り紙でも難しい部分があり、それらをどのような説明文にするか、折り紙をどのように貼ると分かりやすいかなど子どもの気持ちになって考えてつくることができました。

小児がんで入院する子どもたちに壁面を送り届ける中で、「がんの子どもを守る会」の方からクリニクラウンのワークショップを紹介していただき、参加しました。「すべてのこどもにこども時間を」という言葉のもと活動を続けていて、病気という色眼鏡にとらわれずに一人一人の子どもの気持ちや思いを大切にしていることを知りました。クリニクラウンの方々が子どもとかかわる時に大切にしていることや自分自身が楽しむ大切さなど、保育の場面にも通ずることを学ぶことができたので、今後に生かしていきたいと感じました。オンラインのワークショップではありましたが、他に参加していた方々との交流もあり、様々な考え方も吸収することができました。

1月には、「がんの子どもを守る会」の方と一緒に学内にゴールドリボンツリーの設置や絵画の展示も行いました。その際に、壁面や折り図が届けられてからの様子などの話を聞くことができ、親子で折り紙を楽しんでくれていたという話が聞けて、自分たちの活動が少しでも役に立ったのだと実感することができて嬉しかったです。

ゼミでの活動を通して、壁面や折り紙の技術だけではなく、小児がんについて、クリニクラウンの活動など保育の分野にとどまらず様々な知識を得ることができました。その中で、子どもとのかかわりを改めて考えるきっかけをもらい、実践に繋げていきたいと感じました。他にも、協力することや期限を考えて行動することなど基本的なことも改めて大切であると見直すことができました。これらの経験を、今後働くうえで生かしていきたいと思います。

社会的活動報告

「木づかい体験会」への参加・運営

幼児教育学科　2回生　小川　希望

香月ゼミでは昨年度に引き続き、福井県農林水産部県産材活用課と連携して、地元ふくいで育った木を活用した「木づかい体験会」を実施しました。「木づかい体験会」とは、ふくいの町で生まれ育った未就学の子どもたちに、同じくふくいで育った木の良さを伝えるため、また木をはじめとした自然物に遊びを通して親しんでもらうための取り組みです。今年度は、報徳幼稚園の2歳児クラスと、はぎのこども園の4・5歳児クラスを訪問し、ふくいの木を使ったスタンプ遊びを行いました。

★木づかい体験会の実施内容

スタンプ遊びの前には、昨年度の香月ゼミ生が製作した紙芝居「きこちゃんと木の妖精」を元に、内容を簡略化して作ったパネルシアターをしました。子どもたちは次々に出てくる新しいパネルに注目しながら、木について楽しく学んでくれていました。

パネルシアターを見た後は、いよいよスタンプ遊びの始まりです。子どもたちは丸、三角、四角の三種類の形に切ってある木のスタンプを使って、画用紙や大きな模造紙に思い思いの作品を作り出していきました。2歳児クラスで実施した際は、一つ一つの形を丁寧に押して、画用紙に形が写るのを楽しむ子どもや、同じ形をたくさん押していく子どもの姿が見られました。また、4・5歳児クラスで実施した際は、違う形を組み合わせたりスタンプの縁を使ったりして新しい形を作り出す子どもや、自分の手形と組み合わせて遊ぶ子どもの姿も見られました。どちらの年齢の子どもたちも、一人一人違った楽しみ方で集中して遊び込んでいました。遊びの途中でやすりをかける場面では、木が削れていく様子に驚いたり、においの変化に興味を示したりする子どもたちもおり、スタンプを押すこと以外でも楽しんでいる様子が伝わってきました。

木づかい体験会の実施を通して、子どもたちが木の良さやぬくもりなど、五感を通じて感じることができるような遊びを企画・運営する力や、身近な自然物を使った遊びの展開方法など、様々なことを学び、身に付けることができました。

社会的活動報告

仁愛保育園とのアートプロジェクト実施報告

生活科学学科　生活デザイン専攻　准教授　前田　博子

シール剥がすよの会集合写真

じんあいほいくえんart galleryの提案

2021年7月から新しい仁愛保育園が建設される場所に仮囲いが設営され、白い大きな壁が現れた。外出や移動が制限されている中、交流のあり方を変えたアートプロジェクトを実施した。

本プロジェクトにおけるルールは以下の4つとした。

①金銭を介さない
②仁愛保育園関係者（3～5歳児対象）のみの参加
③土曜、日曜、祝日のみの実施
④無人ワークショップ

じんあいほいくえんart galleryの流れ

①園児に絵を描いてもらう
②下絵データを作成し、カッティングシートに加工（図1）
③カッティングシートを仮囲いに貼付け
④3歳～5歳の園児宛に招待状を渡す（図2）
⑤丸く切ったカラフルなシール、マスキングテープを用意し、下絵を頼りに自由に貼ってもらう
ワークショップは2021年12月11日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日）、25日（土）、26日（日）、2022年1月8日（土）、9日（日）、10日（月）、15日（土）、16日（日）に実施（図3、4、5）
⑥2022年1月21日（金）「シール剥がすよの会」実施（図6）

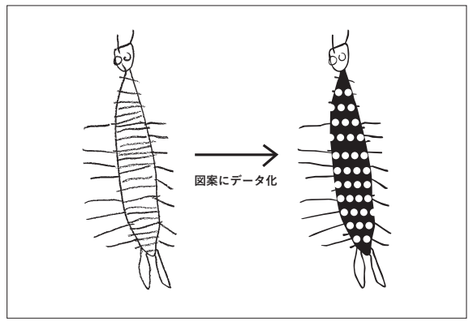


図1　子どもの描いた絵をデータ化したもの

本プロジェクトの成果

園児たちは「おともだち」が描いた下絵を頼りに自身の痕跡を残すことを毎週繰り返していた。先週の痕跡を頼りに別の誰かがそのイラストを解釈し、新たな線や色が足されていく。園児とその家族の主体的な参加によって交換日記のような画面が毎週描かれ、物語の続きが紡ぎ出された。他者の造形や色彩を頼りに間接的な対話の痕跡を残すことができた。

子どもたちがシールやテープを貼ることで彩りが加わり、白い大きな壁だった仮囲いがわたしたちが出会った軌跡を伝える壁に変容した。閉ざされたローカル社会で、子どもたちと社会とをつないだ本プロジェクトは参加者にとってコロナ禍での特別な経験として記憶されるはずである。

図2　招待状

図3　WS開催時の玄関風景

図4　園児がシールを貼る様子

図5　園児がシールを貼った様子

図6　シール剥がすよの会

私立大学研究ブランディング事業 成果報告会

ブランディング推進室長　増田　翼

2018年度に採択されました文部科学省私立大学研究ブランディング事業「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発〜シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して〜」につきまして、2022年2月に成果報告会を開催しました。ここでは、これまでの事業全体の活動について報告するとともに、完成した「キャリア・ルーブリック」およびその試行結果の公表を行いました。当日の案内文および開催日程などは以下の通りです。

福井県のような人口減少社会においては、一人でも多くの保育職志望者を確保するとともに保育職従事者の定着を図ることが重要となってきています。しかし、現状として中高生に保育の魅力、保育職の魅力がどこまで伝わっているでしょうか。また、保育者養成校の学生ならびに現場保育者は、自らのキャリアパスをどの程度見通すことができているでしょうか。これらの課題を一体的に捉え取り組んできた本事業の成果をもとに、今後の保育者養成校に求められること、さらには高校ー保育者養成校ー保育現場という三者間における連携・協働の在り方について考えてみたいと思います。

●開催日程：2022年2月26日（土）13:00〜15:30
　開会挨拶
　〔第１部〕研究実施部会成果報告
　〔第２部〕ブランディング戦略部会成果報告
　質疑応答 / 閉会挨拶
●オンラインライブ配信（Zoomウェビナー）参加費無料（要申込）

当日の報告会（Zoomウェビナー）には、保育者養成校教職員の方々をはじめとして、福井県内保育現場の先生方、高校の先生方、保育行政関係者の方々など学外から54名の参加申込をいただきました。学内関係者も含めるとたいへん多くの方々に本事業の詳細を周知することができ、有意義な会となりました。また、報告会の最後に20分ほどの「質疑応答」の時間を用意したところ、様々な視点からご意見ご質問を頂戴することができました。さらに、閉会後も多くの参加者の方からアンケート回答をいただくことができました。

本事業の一つの目標であった「キャリア・ルーブリック」については、次のページ（図1・図2）に掲載するようなかたちで一応の完成に至りましたが、実際に本学の学生に対して試行した結果などを踏まえて、今後も改良改善を続けていきたいと思います。なお、今回の成果報告会の内容ならびに2021年度の活動実績等の詳細については、『最終報告書（2021年度）』としてWeb公開していますので、そちらをぜひご覧ください（https://www.jin-ai.ac.jp/branding/）。

研究ブランディング事業
特設ページ

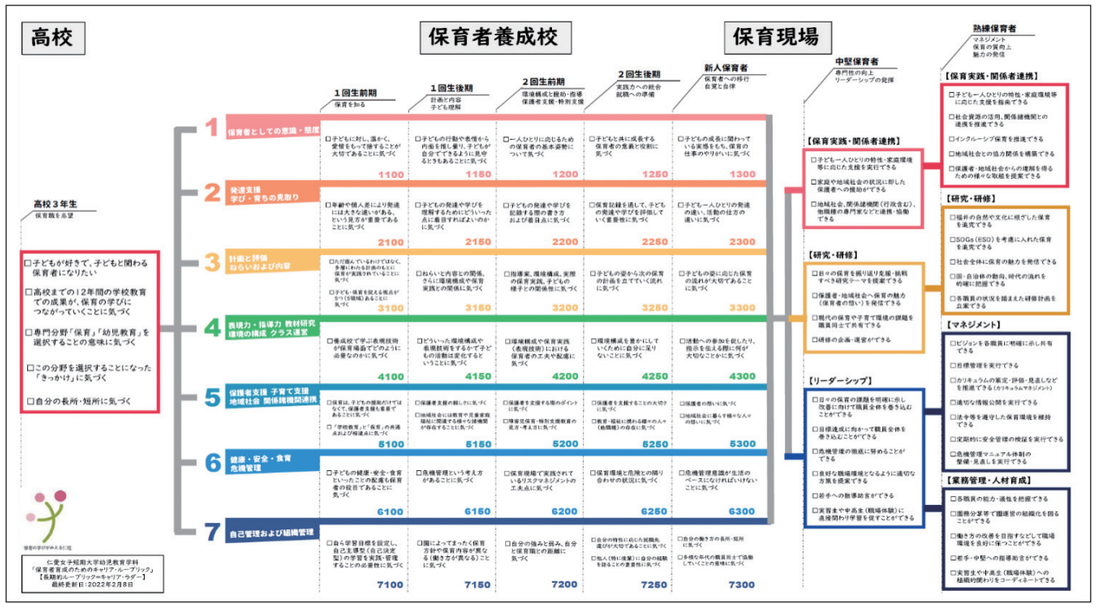


図１　長期的ルーブリック（キャリア・ラダー）

図２　短期的ルーブリック（一部分のみ）

図書館の活動報告

附属図書館　竹下　真弓

図書館では、知的好奇心を共有する安らぎの場として、様々な企画や展示を実施している。

例年、本学卒業生と森田地区住民の方に貸出サービスを行っていたが、現在は、新型コロナウイルス感染状況をみながら利用サービスを行っている。詳細は、附属図書館HPをご確認いただきたい。(https://www.jin-ai.ac.jp/library/)

●2021年4月「本屋大賞受賞作品展」

2021年本屋大賞受賞作『52ヘルツのクジラたち』町田そのこ著をはじめ、候補作品あわせて10冊を展示した。

●2021年5月「創作絵本展」

本学の生活デザイン専攻2回生が「デッサンⅡ」の授業で創作した16作品を展示した。絵やお話、絵本カバーまで全てオリジナル。他学科・他専攻の学生たちにも人気の展示である。

●2021年8月「短大で取得できる資格特集」

各学科・専攻で取得できる資格関係の書籍を展示した。この展示をオープンキャンパスで来校した高校生が熱心に見てくれた。

●2021年9月「図書館サポーター選書本」

後期の授業開始に合わせ、図書館サポーター9名が選書した図書など37点をおすすめのコメントを添えて展示した。同年代の学生が選ぶ図書は、毎年貸出が多い人気のコーナーになっている。

●2021年10月「読書の秋!推薦図書展示」

毎年、各学科・専攻の教員から“学生に読んで欲しい図書”を推薦していただいている。その中から24冊を選び展示した。

●2021年11月「絵本なぞなぞシリーズ作品展」

幼児教育学科「保育内容指導法　言葉」(1回生)の授業で過去に創作された作品の中で選りすぐりの作品54点を展示した。

学生が創作したなぞなぞとそれに関連する貼り絵が施されている。

現幼児教育学科の学生が制作するためのお手本にと作品を鑑賞する姿が見られた。

●2021年12月「第9回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されている。その中から3作品（今年は、『セロ弾きのゴーシュ』・『ねずみの嫁入り』・『月夜とめがね』）を図書館が選び、作品の持つ魅力を一層際立たせる様な「表紙デザインコンテスト」を行った。優秀賞受賞者には、副賞として図書カードと作品を表紙にした文庫本を贈呈している。

※2021年度優秀賞作品

●2022年1月「にゃんにゃん写真展」

猫部のみなさんが撮影したかわいい猫の写真とクスッと笑えるコメントを合わせて展示した。猫部は、地域猫の保護活動も行っている。

昨年の半年間閉館していたことを思うと、2021年度は、図書館の企画・展示を4月から実施することができ、感慨深く感じた。

今後も、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、安心して図書館を利用してもらえるよう努めていきたい。

図書館

福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室

副室長　野路　昌美

子育て支援室・相談室では、福井市委託事業「福井市子ども相談・子育て支援事業」を行っています。開所して15年が経過しました。特にこの2年間は、当所のような小さな場所にも、地域の子育て家庭の様々な思いが寄せられました。そこには、目まぐるしく形状が変化する社会のしわ寄せの波が漂っていました。私たちは、利用者や相談者に寄り添い、語りを受け止め、共感し、想いに耳を傾け、共に考えていきました。これらまるごとが子育て支援なのだと日々実感する1年でした。

「ママと子の絵本と
わらべうたあそび」
桜木図書館　司書

親子講座「ミュージックケア」
ミュージックケアワーカー

仁愛女子短期大学
幼児教育学科　体験学習

親子プログラム
「クリスマスリース作り」

【相談室 ～子ども相談～】

相談室では、心理担当職員らが18歳未満の子どもの養育等に関する相談に応じました。相談者の多くは、子育て家庭の保護者です。内容としては、発達についての気がかりさを乳幼児健康診査や保育園から指摘されたことがきっかけで相談される方が多かったです。また、子育てや家族関係の負担等により精神的に不安定な場合もあり、その思いを聴き必要に応じて助言等を行いました。

<令和3年度 相談対応件数>

子ども相談のべ件数	開所日数
1,175件	307日

<令和3年度 相談主訴割合>

養護	障がい	性格行動	不登校	適性	育児しつけ	その他
32%	2%	15%	4%	1%	41%	5%

【子育て支援室 ～福井市地域子育て支援センター～】

子育て支援室は、今年度も福井市の指導に従い、時間予約制の運営を行いました。利用者が安心して過ごすことができるよう、入室前には健康状態の確認、県外移動歴の確認を行わせていただきました。また、室内では、入室時と退室時に手洗いをお願いし、利用者同士が密にならないように声を掛けたり、定期的な換気をしたり、おもちゃや室内の消毒の徹底を図りました。

<令和3年度 来所利用者数>

総利用者数（人）	保護者数	子ども数	開所日数
5,895人	2,756人	3,139人	307日

<令和3年度 子ども年齢別利用割合>

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4～6歳児
26%	31%	18%	15%	10%

また、日ごろから、家庭生活の状況について利用者に尋ねていきました。「県緊急事態宣言中、家で引きこもり状態だった。晴れ間をみて子どもと外を散歩したり、子どもを公園で遊ばせたりもしていた」、「この支援室は、県外出身の利用者が多くいるのではないかと不安だったが、対策を十分にしていると聞かせてもらい安心した」、「県の緊急事態宣言の発令で、よく遊びに行く施設が臨時休館して、どこへも行くことができなかった。公園は日陰がなく、遊べなかった。幼稚園も休みになって、子どもの世話が大変だった。ここは、就学前まで利用できて、子育てのサポートもしてくれるのでほっとする。安心して遊べる」などの話を伺うことができました。

つくってあそぼう
「こいのぼり」

季節の行事
「おまつりごっこ」

子育て講座「入園について」
保育専門官

子育て講座「夏の健康」
助産師

一方、宣言解除後には、天候の具合と重ねてか、利用予約のキャンセルが多くなる日があったり、県外から出産のための帰省があったりするなど、子育て家庭にもその変化が表れていました。

≪子育て相談≫

子どもの社会生活の場である保育園の入園や園生活についての心配ごとというのは、本当に次から次へと湧いてくるもので、時期を問わず様々な相談がありました。

「入園して昼寝がなくなり、家に帰ってからのぐずりやイヤイヤがひどくなった。子どもの対応に負担を感じる」、「園でトイレトレーニングが始まった。帰宅すると、子どもは尿意や時間に関係なくトイレばかり行くので相手をするのが疲れてしまった」という生活の困りごとや、「3人目の育休中。4月から仕事復帰。息子2人は小学生。娘は保育園に入園予定。園の送迎や私が帰宅するまでの間、義母が3人の子どもをみてくれると言っているが、私も夫も定時で帰宅できない。義母の負担にならないかと心配」、「コロナ禍で保育園の見学ができないといわれた。どのように園を選んだらよいかわからない」、「4月から入園する園に行ってみたら、たくさんの子どもがいた。うちの子が、コロナに感染しないか不安になった」という気がかりなこと、さらには「4月から保育園に入れようと思うが、1日預けることに罪悪感がある」と、不安を抱き申し訳なさそうな表情で話をしてきてくれた利用者もありました。

職員は、園での出来事と家庭での様子、それから一番大事な利用者（親）の思いを聴かせていただき、一緒に考え、不安や心配をひとつずつ軽減できるように対応していきました。

また、制限と共に暮らす生活については、今年度もさらに辛い思いを利用者からうかがうことになりました。

「感染症予防のため、自宅で子どもといる時間が多くなり、子どものイヤイヤ期も重なり、子育ての負担が増大した」そう話す利用者は、気持ちに余裕がなくなり、張り詰めた様子でした。また、「感染症予防で出かけることができない中、2歳の息子は、ごはんも食べないし、どうしてほしいのかわからない。子どものために一生懸命しているのに、うまくいかず疲れた」と、うまくいかないことで自分自身を責める声もありました。

気分転換をしてはどうかという話をよく耳にすることがありますが、気分転換とは口にするほどそう簡単にできるものではありません。

職員は、利用者の希望する過ごし方に寄り添い、少しでもリフレッシュできるように、関わり方の工夫に努めました。また、日常的な来所利用を促したり、心理担当職員との定期的な面談を提案したりしました。子どもに付きっきりで過ごす時間を負担に感じる前に、社会資源を利用する方法なども伝えながら、一緒に考えていきました。

≪親子プログラムなど≫

利用者に関心を持ってほしい内容や子育て力を高めてもらうために役立つ内容の話題提供を行いました。

項　目	内　容
子育て講座（学園連携含む）	・感染症予防の話　・わたべうたあそび
親子講座（ボランティア講師）	・えっちゃん絵本よんで　・ミュージックケア
季節の行事	・たなばたの集い　・豆まきごっこ
親子プログラム	・ママと子のおはなし会　・ふれあいあそび
親支援事業	・はっぴぃすmama　・ほっとるーむ はぐはぐ
地域支援活動	・松本公民館　・桜木図書館

親子プログラム
トーチ作り＆オリンピックごっこ

地域支援活動
松本公民館

5月、福井に東京五輪聖火リレーがやってきました。親子でトーチを作り、子どもたちは上々な出来栄えのトーチを掲げて、職員の後について走ったり歩いたり、聖火リレーの様子をまねて遊びました。

新年には、「お正月あそび」と題して、福笑い、コマまわし、かるたあそびなど、昔ながらの季節あそびを体験しました。本物の木製のコマを用意してみたところ、子どもの頃にコマまわしをしたことがあるという利用者が、子どもに遊び方を見せたり、手を添えて遊び方を導いたりして、微笑ましい親子の姿がありました。

子育て講座「言葉の育て方」では、言葉の発達の道筋をはじめ、毎日の生活の中での様々な場面において「行動を言葉にして伝える」という言葉の育て方を学びました。耳や鼻の早期治療、食生活の大切さも教えていただきました。参加者全員が個別相談を希望し、講師からは具体的なアドバイスを受けることができました。

11月に開催した「感染症」の講座では、助産師に講師を依頼し、室内の環境整備（暖房・湿度・換気）、衣服の調整（吸水性・通気性・保湿性）、スキンケア（清潔・保湿)など、冬の過ごし方のポイントを教えていただきました。また、冬にかかりやすい感染症（インフルエンザ・ノロウイルス・ロタウイルス・RSウイルス感染症）については、その症状や対処方法を学ぶことができました。

参加者からは、「わかりやすく学ぶことができた。子どもの健康を守れるように注意したい」、「知らないことを知ることができて、今後に活かしたい」など前向きな感想を多くいただきました。

今後も、利用者との会話や相談などから、話題を抽出し講座を企画していきたいと考えています。

親子講座「人形劇を楽しもう」
保育士サークル

親子講座「子どもの靴の選び方」
理学療法士

≪はっぴぃすmama≫

転勤などで福井に転入してきて、地域のことが分からなかったり、そのことで自宅に引きこもりがちになったりしそうな気がかりさのある利用者に働きかけ、同様の境遇にある利用者同士が交流を図る場を設定しました。

新規の参加者だけではなく、数年間継続して参加してくださる方も仲間に入って、話し合いや情報交換を行いました。「生活の悩みが同じ」「分かち合えることが多い」「はっぴぃすmamaがきっかけで、交流が続いている」という意見をいただき、取り組みの効果が表れていることがうかがえました。

≪ほっとるーむ はぐはぐ≫

子育ての不安感や困り感、ストレスなどが強いと感じている保護者が集まりました。心理担当職員がコーディネーターとして関わり、大人だけの空間を設定して、テーマに沿った話し合いを行いました。

子どもへのしつけや関わりのみならず、夫や(義)父母との関係に悩む声も聞かれました。互いの経験や気持ちを伝え合うことで、具体的な対処やストレス解消法など新たな知識を得ると同時に、ストレス発散、エネルギー補充、支え合いの場としての機能を担いました。

≪学園連携講座≫

幼児教育等を専門に研究する仁愛女子短期大学の教員を講師に招いて子育て講座を開催しました。また、学生の参加を得ることで、様々な世代が、子育て支援に参加する社会づくりの推進に取り組みました。

開 催 日 時	テーマ/講師
9月12日(日) 10:00～10:30	「えいごであそぼう」 仁愛女子短期大学　野本 尚美 氏
11月10日(水) 10:00～10:30	「わらべうたあそび」 仁愛女子短期大学　坂本 流美 氏
11月28日(日) 10:00～10:30	「いろいろな音を楽しもう」 仁愛女子短期大学　木下 由香 氏
12月16日(木) 10:00～10:30	「おはなし会」 仁愛女子短期大学　松川 恵子 氏

季節の行事
節分「豆まきあそび」

地域支援活動
桜木図書館

さて、講座に必要なものは学生らが手作りで準備をしてくれました。3歳位までの子どもが喜ぶ、絵本やわらべうたあそびをいろいろ検討したり、それらを提供する際のアドバイスを学内図書館司書に教えてもらったりしたとのこと。それから、計画を見直したり事前の練習を繰り返したりして、当日に臨んでくれました。そのような新鮮な感覚を持つ学生らが手遊びを提供すると、子どもたちは夢中になって遊びを楽しんでいました。

参加者からは「最初は、親である私が、先生となる若い学生を応援してあげようと考えていたが、子どもを楽しませようとする学生の熱意に、逆に応援してもらっているようで嬉しくなった」との感想をいただきました。

≪仁短生 体験学習≫

幼児教育学科2回生が、子育て支援の授業の一環として学外体験学習を行いました。学生らは、「親の心に寄り添って話を聴くことの大切さについて気がつくことができた」、「今日の体験を将来の保育の仕事に活かしたい」と感想を寄せてくれました。

また、生後3か月の赤ちゃんに触れた学生は、「かわいいと思う気持ちを抱いた」「命の大切さや親の愛情を感じた」「親の子どもへの願いが込められていることを知った」など、実体験から多くを学んでいました。

≪子育て支援ボランティア た・ま・ごの会≫

季節の壁面作りや親子活動の下準備、季節の行事のお手伝いなど計27回のべ43名の方々に活動いただきました。

行事に参加した親子は、自分らの祖父母や曾祖父母ほどの年齢にあるボランティアから、優しいまなざしや寄り添いの言葉をかけてもらい、穏やかな表情を見せていました。一方、今年度の活動の多くは、親子活動に使う工作パーツの作成やおもちゃ作りという手作業でした。縁の下の力持ちとして様々な形で利用者を支えていただきました。

子育て講座「おはなし会」
仁愛女子短期大学 学生参加

子育て講座「えいごであそぼう」
仁愛女子短期大学 学生参加

【児童虐待防止普及啓発事業～オレンジリボン運動～】

今回、本事業では、子育て中の保護者が精神的ゆとりを持てることや市民に子育てへの関心を持ってもらいたいとの願いを込め『ひと声かけて寄り添って』というキャッチフレーズを掲げました。リーフレット等を作成し、商業施設や薬局への配付を行いました。また、福井市の広報チャンネル「いきいき情報ふくい」にて当所の案内番組の配信を行うなど、福井市と協働して児童虐待防止の周知を図りました。

福井市行政チャンネル
ふくチャンネル「いきいき情報ふくい」
https://youtube.be/0rTAL7EZ6kU

福井市児童虐待防止
リーフレット・ポスター

福井市子ども家庭センター
子育て支援室・相談室
ホームページ（PC版）

仁愛女子短期大学
幼児教育学科 体験学習

子育て支援ボランティア
た・ま・ごの会

教員の地域活動一覧

生活科学学科

（専攻別･五十音順）

	専門分野	氏　名	講演や講座のテーマ・内容など
生活情報デザイン専攻	都市計画 まちづくり 住民自治 コミュニティデザイン	内山　秀樹	●先進事例からまちづくりのココロを学ぶ ●夢ある国高のまちづくり～これからどう取り組むべきか？ ●やねだんから学ぶまちづくり8ヶ条 ●やねだんから学ぶまちづくりの流儀 ●わが町の活性化計画をより魅力的にする ●プロフェッショナルを目指して　若者参画の流儀 ●人と地域をつなげる公民館を目指して ●みんなで創る笑顔あふれる今富～自分ごとで考え、協働するまちづくり～ ●地域を魅力的に・人を元気にする プロジェクトづくりのススメ ●これからのまちづくり～自分ごとで考え協働するまちづくり ●今富地区まちづくり計画検討ワークショップ ●地域課題解決のための企画検討ワークショップ ●森田地区将来ビジョンVer.3見直しワークショップ ●味真野地区まちづくり計画検討ワークショップ ●どうする!?町内会 ●若者と地域づくり ●里山坂口での地域づくり ●歩いて暮らせるまちづくり
	コミュニケーション マーケティング 経営	澤崎　敏文	●効果的なプレゼンテーション手法について ●地域におけるマーケティングのあり方について ●ソーシャルメディアとビジネスの活用 ●地域ビジネス、企業等におけるマネジメント ●企画立案、広報手段について ●コミュニケーションのあり方 ●キャリアデザイン、学びと学習環境等
	教育工学 学習科学	田中　洋一	●保育者のためのパソコン教室 ●eポートフォリオ活用の研修 ●幼稚園における視聴覚教育研修 ●アクティブ･ラーニングのための授業設計の研修
	グラフィックデザイン ビジュアルコミュニケーション	西畑　敏秀	●デザイン研修／基礎コース　デザイン基礎コースの講師 ●屋外広告物講習会（屋外広告業の経営者および従事者、管理者へのデザイン講習） ●福井県高校総合文化祭　美術・工芸部門（美術部高校生や美術関連教員に向けた講演会） ●高度技術者招聘事業（特別授業開講） ●ふくふくベジファースト応援事業「ベジファースト／ロゴ・ポスターデザイン」 ●ふくいサラダニンジンプロジェクト「新種ニンジンのネーミング企画・ロゴマークデザイン」
	英語教育 第二言語習得論	野本　尚美	●幼児向け英語教室 ●小学生向け英語教室 ●洋楽で英語を学ぼう
	人事管理 情報知力教育 教育工学 ＧＩＳ SDGｓ 消費者教育	帆谷　和浩	●働き方革命「テレワーク」と人事管理 ●各種情報システムの構築と教育・学習形態 ●電子会議システムを用いた効率の良い情報スキル学習 ●SDGｓ「電源自立のスマートハウス」再生可能エネルギーとＥＶ車の活用 ●SDGｓ「ペーパーレスでの大会運営」国民体育大会、全国障害者スポーツ大会運営 ●インターネットを活用した市民参加型安全安心マップ ●コワーキングスペースの構築と活用 ●各分野における情報化社会の将来 ●電子決済の落とし穴
	テキスタイルデザイン ファッションデザイン	前田　博子	●ファッションショーの実施 ●染め物ワークショップ ●ファッション小物制作ワークショップ ●企業連携テキスタイル商品企画 ●テキスタイルデザイン図案制作
食物栄養専攻	食品学 食品加工学 農産製造学 応用微生物学	小林　恭一	●県産食材の栄養・機能成分と加工 ●野菜の栄養・機能成分について ●永く守り、受け継ぎたい伝統の福井野菜 ●加工食品の知識と視る目を養う ●福井県農産物の加工技術・食品開発 ●6次産業化のための普及活動のポイント ●サトイモ加工に関する取り組み、6 次産業化について ●6次化に取組む時に考えなければならないこと ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座「食品学」「食品衛生学」 ●福井ウメの機能成分解析と特長を活かした利用加工 ●野菜の栄養・機能性成分と機能性表示食品 ●「福井梅」の歴史、栄養、機能性、加工利用、研究開発事例 ●自然は美味しい?!～発酵食品と食品添加物の話～ ●栄養成分表示の活用について ●奥越特産サトイモについて ●ふくいの加工食品あれこれ ●食品添加物の話 ●食品加工の基本 ●ジャム作りの基礎 ●加工食品の知識
	生物科学 社会医学	髙木　康之	●管理栄養士国家試験対策リカレント講座
	公衆栄養学	牧野みゆき	●食と健康－健康寿命を延ばす食事－ ●食と健康－生活習慣病予防で健康寿命を延ばそう－ ●あなたの食卓から子どもの未来を考える ●「日本人の食事摂取基準2015」を活用した児童福祉施設における栄養管理 ●健康は栄養管理から－低栄養のキケン－ ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座「栄養教育論」「公衆栄養学」「応用栄養学」 ●働く女性の健康管理－食事の工夫－ ●女性の健康と食生活
	調理科学	森　　恵見	●親子で作るデコレーションケーキ ●親子クッキング ●食育講座（調理実習） ●離乳食教室

幼児教育学科

(五十音順)

専門分野	氏　名	講演や講座のテーマ・内容など
健康体力学 測定評価学	内田　　雄	●児童厚生指導員研修会「ゲーム・運動遊び」 ●保育者ワークショップ「昔遊びを楽しもう」 ●小学校 1.2.3 年生が楽しめる室内遊び、昔遊び ●ゲーム・昔遊び
保育	小川　智枝	●保育士スキルアップ研修　主任保育士研修「子ども家庭支援論」
仏教学 仏教保育学 おもちゃ学	香月　　拓	●保育者ワークショップ「身近な素材でおもちゃをつくろう」 ●新人保育者スキルアップ「新聞紙で遊ぼう」 ●こどもの成長とおもちゃあそび ●メンタルケア・スペシャリスト養成講座「死生論Ｉ」 ●子育て講座「おもちゃで育む親子のふれあい」 ●自分とは何か ―お釈迦様のことばに学ぶ― ●人生は楽しいもの？苦しいもの？ ―お釈迦様のことばに学ぶ―
音楽	河野　久寿	●文化に親しむ【音楽文化講座】第3回「コンピュータによる音楽の作り方」
音楽教育 ピアノ教育 ピアノ演奏	木下　由香	●ふるさと子どもコンサート ●ピアノで奏でる絵本の世界 ●ステージできくはじめてのコンサート ●親子のための虹色コンサート in AOSSA ●親子のための虹色コンサート in 大野「手作り楽器ワークショップとミニコンサート」 ●聴いて、見て、動いて楽しむ！0歳からのクラシックコンサート ●ポルタDe'ファツィオリ「ピアノふれあい体験」 ●ピアノ公開講座 ●保育者ワークショップ「子どものための音楽遊び～ピアノと戯れよう～」 ●AOSSA子育て支援室「いろいろな音を楽しもう」 ●越前まなぼう座「親子でわくわく子ども教室」親子で一緒に！手作り楽器を楽しもう！ ●出張音楽堂 ●Fukui Art Baton ●まちかどコンサート ●いしかわ・金沢　風と緑の楽都音楽祭
幼児造形指導法 洋画制作 洋画原書翻訳 明治期日本における洋画の受容	重村　幹夫	●子どもの絵　大人の絵 ●明治前期の油絵技法材料について ●造形を通した子どもとの関わり方 ●小学校低学年児童が作って遊べる遊具 ●幼児の造形や既習能力に応じた造形活動のあり方について ●幼児の主体的な造形活動のために－「造形遊び」を中心に－ ●「かたち」発見 ●クレヨンで動物を描きましょう ●幼児造形の指導法
児童発達支援 特別支援教育	中尾　繁史	●気になる子への支援教材の作り方 ●子どもの『あのね』を引き出す関わり方 ●情報共有のための観察と記録の視点 ●『気になる子』への対応
日本文学 児童文学 国語科教育	前田　敬子	●発見　百人一首の世界 ●歌う金子みすゞ ●絵本や物語に親しむ ●加古里子の絵本・保育者ワークショップ　書くこと、読むことの保幼小連携 ●恋する山川登美子 ●伝わる文章の書き方 ●保幼小接続講座・絵本の世界
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田　　翼	●新保育所保育指針について ●指導要録 保育要録について ●「遊び」とは何か ●連絡帳の書き方 ●保育者だからできること 保育者にしかできないこと ●「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の視点について ●4歳児の育ちについて ●5歳児の育ちと小学校への接続について ●歌う楽しさの原点にあるものは？ ●気がかりな子を包み込む集団づくり ●外国籍の子どもや保護者は何に困っているのか ●スマホ育児 ちょっとだけでも分かっておきたいこと ●躾が変われば子どもも変わる？ ●主体的に学ぶとは ●保育の専門性について ●保育における環境構成 ●保育に活かす音の遊び ●生活発表会について
乳幼児教育 保育内容	松川　恵子	●主任保育士の役割と責務 ●中堅（リーダー）職員としての役割・行動 ●質の高い保育を目指して ●幼児期における道徳性や規範意識の芽生えについて ●“Nobody's Perfect”子どもを育てて親も育つ

活動報告

令和3年度　教員免許状更新講習

令和3年度の教員免許状更新講習は、新型コロナウイルス感染拡大防止および文部科学省からの実施方法の特例等に基づき、オンライン（YouTube動画配信による非同期型もしくはZoomによる同期型）で実施しました。前期・後期に開講した講習は、次の通りです。
なお、開講最少受講者数に満たなかった講習については中止とし、中止講習を希望していた受講生には、他講習への変更手続きを行っていただきました。
また、後期より受講の申込方法を、Webで予約申込み後、受講申込書等の手続書類一式を提出（郵送）する形に変更しました。

【前期開講】

必修講習①	講習名	教育の最新事情
	認定番号	令03-35141-100206号
	講師	増田　翼（本学 幼児教育学科 准教授） 乙部　貴幸（仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 准教授） 賞雅さや子（仙台大学 子ども運動教育学科 教授）
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年7月9日（金）9:00～7月12日（月）
	受講者数	208人

選択必修講習①	講習名	幼稚園教育要領等の理解および幼少接続の現状と課題
	認定番号	令03-35141-300548号
	講師	松川　恵子（本学 幼児教育学科 教授） 江端　佳代（本学 幼児教育学科 非常勤講師） ゲストスピーカー：青木美恵（福井県教育庁義務教育課 幼児教育グループ 主任）
	講習の目標・ねらい	「幼稚園教育要領等の理解」では、幼稚園教育要領等の内容の理解及び幼稚園教諭等に求められる最新の知識の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。 また、「幼小接続の現状と課題」では、幼小接続についての教員に求められる最新の知識の修得と今日的な教育課題についての理解が深まることを目指すとともに、福井県の幼小接続の取り組みの実情についての理解を目指す。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年7月16日（金）9:00～7月19日（月）
	受講者数	169人

選択必修講習②	講習名	幼児期における英語
	認定番号	令03-35141-300549号
	講師	野本　尚美（本学 生活科学学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「外国語としての英語教育の理論」「幼児英語教育の実践演習」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年7月16日（金）9:00～7月19日（月）
	受講者数	50人

選択講習①	講習名	子どもの運動と食育
	認定番号	令03-35141-502287号
	講師	内田　雄（本学 幼児教育学科 准教授） 木内　貴子（本学 生活科学学科 講師）
	講習の目標・ねらい	子どもの健康を「運動」と「食育」の面から学ぶことを目的とする。 「運動」では、子どもの運動遊びと体力の発達について学ぶとともに、運動遊びの中での子どもの多様な動きをどのように引き出し、どう評価するのかを考える。 「食育」では、発育・発達の過程にある子どもにとっての食生活の重要性とその在り方、食物アレルギーの基礎知識とその対応について学ぶ。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年8月6日（金）9:00～8月9日（月）
	受講者数	224人

選択講習②	講習名	仏教に見る子どもとの関わり
	認定番号	令03-35141-502288号
	講師	香月　拓（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	釈尊の生涯と言葉について学ぶ。さらにその学びを通して、これまでの子どもとの関わりについて振り返りながら自己省察をする。また、仏教行事のあり方や意味についても学んでいく。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年8月20日（金）9:00～8月23日（月）
	受講者数	45人

選択講習③	講習名	子どもの音楽的感性を育む実践指導
	認定番号	令03-35141-502290号
	講師	木下　由香（本学 幼児教育学科 教授） 河野　久寿（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	子どもたちの発達に応じた音楽表現活動の意義を理解し、自然な音楽活動を通して、伸びやかな音楽的感性を育成する実践的な指導について学ぶ。子どもたちの音楽的感性をより育むことを目的とした講習を、理論と実践の両面から行う。
	実施方法	Zoom（オンライン遠隔会議システム）　［同時双方向型］
	日程	令和3年8月24日（火）9:00～16:10
	受講者数	14人

選択講習④	講習名	発達障害・気がかりな子どもの理解と支援
	認定番号	令03-35141-502291号
	講師	中尾　繁史（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	発達障害に関する基本的知識を整理するとともに、発達の気がかりな子どもに対する多角的な視点を持つことを目的とする。加えて、そのような子どもたちに対する支援方法にはどのようなものがあるか、それらを実際に応用するためにはどのような視点が必要かについて理解することも目的とする。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年8月27日（金）9:00～8月30日（月）
	受講者数	220人

選択講習⑤		
	講習名	「しつけ」とは？　～しつけに対する不安と向き合う～
	認定番号	令03-35141-502294号
	講師	増田　翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「しつけ」に関する先行研究の成果をひもときながら、「しつけ」を捉えるための様々な視点を獲得していく。特に、現代日本社会において「しつけの混乱」や「しつけに対する不安」などが生じている背景を理解するとともに、ICT化の普及に伴いここ10年ほどで大きく変化してきた子育て環境が「しつけ」それ自体を変えようとしている実態を明らかにしていく。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年9月3日（金）9:00～9月6日（月）
	受講者数	210人

【後期開講】

必修講習		
	講習名	教育の最新事情
	認定番号	令03-35141-100207号
	講師	増田　翼（本学 幼児教育学科 准教授） 乙部　貴幸（仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 准教授） 賞雅さや子（仙台大学 子ども運動教育学科 教授）
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年11月5日（金）9:00～11月8日（月）
	受講者数	25人

選択必修講習①		
	講習名	幼児期における英語
	認定番号	令03-35141-301781号
	講師	野本　尚美（本学 生活科学学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「外国語としての英語教育の理論」「幼児英語教育の実践演習」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年10月29日（金）9:00～11月1日（月）
	受講者数	18人

選択必修講習②		
	講習名	安心安全な園づくりのために（危機管理上の課題と組織的対応の必要性）
	認定番号	令03-35141-300551号
	講師	増田　翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	園を取り巻く「危機管理上の課題」および「組織的対応の必要性」について「学校保健安全法」にも触れながら考察することである。具体的には、大規模災害や大規模感染症に対する危機管理およびリスクマネジメントについて理解を深めるとともに、園での事故・ケガのリスクを軽減する方策について議論していきたい。講習全体を通して、「安全安心な園づくり」のために保育者には何が求められるのか、について考えていく。
	実施方法	Zoom（オンライン遠隔会議システム）　［同時双方向型］
	日程	令和3年11月14日（日）9:00～16:10
	受講者数	9人

選択講習①		
	講習名	発達障害・気がかりな子どもの理解と支援
	認定番号	令03-35141-502295号
	講師	中尾　繁史（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	発達障害に関する基本的知識を整理するとともに、発達の気がかりな子どもに対する多角的な視点を持つことを目的とする。加えて、そのような子どもたちに対する支援方法にはどのようなものがあるか、それらを実際に応用するためにはどのような視点が必要かについて理解することも目的とする。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年11月19日（金）9:00～11月22日（月）
	受講者数	25人

選択講習②		
	講習名	保育におけるマネジメントとリーダーシップ
	認定番号	令03-35141-502296号
	講師	増田　翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	多様化・複雑化する保育現場の現状を踏まえたうえで、保育におけるマネジメントとリーダーシップの理論および意義・役割について理解することを目標とする。具体的には、講習を受講することで、①組織マネジメント、②他職種との協働・連携、③保育の質保証、④保育におけるリーダーシップ、などについて考察するための見方を獲得する。
	実施方法	Zoom（オンライン遠隔会議システム）　［同時双方向型］
	日程	令和3年11月23日（火）9:00～16:10
	受講者数	5人

選択講習③		
	講習名	子どもの運動と食育
	認定番号	令03-35141-502297号
	講師	内田　雄（本学 幼児教育学科 准教授） 木内　貴子（本学 生活科学学科 講師）
	講習の目標・ねらい	子どもの健康を「運動」と「食育」の面から学ぶことを目的とする。 「運動」では、子どもの運動遊びと体力の発達について学ぶとともに、運動遊びの中での子どもの多様な動きをどのように引き出し、どう評価するのかを考える。 「食育」では、発育・発達の過程にある子どもにとっての食生活の重要性とその在り方、食物アレルギーの基礎知識とその対応について学ぶ。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年11月26日（金）9:00～11月29日（月）
	受講者数	20人

選択講習④		
	講習名	仏教に見る子どもとの関わり
	認定番号	令03-35141-507264号
	講師	香月　拓（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	釈尊の生涯と言葉について学ぶ。さらにその学びを通して、これまでの子どもとの関わりについて振り返りながら自己省察をする。また、仏教行事のあり方や意味についても学んでいく。
	実施方法	動画視聴　［オンデマンド型・YouTube配信］
	日程	令和3年12月3日（金）9:00～12月6日（月）
	受講者数	13人

SOCIUS［ソシアス］No.16

2022年5月30日 発行

仁愛女子短期大学　総合学務センター
入学・地域支援課　地域連携室

〒910-0124　福井市天池町43-1-1
TEL.0776-56-1133　FAX.0776-56-2922
E-mail　jissen@jin-ai.ac.jp